

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

卒業後、現場で恥をかかないよう。
マイスターからの学びを、明日への糧に。

ものづくりマイスターに指導していただくことは、スペシャリストならではの技能や知識を生徒たちに伝えていけるところに意味があると思います。実際に指導していただく場面を見て、目から鱗が落ちる思いがしました。私たちはまず教科書に忠実な指導をしますが、現場現場での対応は違う。道具ひとつ使うにしても、「こう使えばこういう効果が出る」という効率を重視し、もっとも精度の高い方法で進めていく。さすがが第一線で活躍されている方ならではのやり方だと感心しました。またこの制度を利用するようになってから、引込み思案だった生徒が自分から質問しに行くようになったり、生徒たちの様子にも変化がみられるようになりました。当校には、卒業後に造園業界を志す学生も少なくありません。彼らが実際に現場に出たときに「こんなこともできないのか!」と言われないよう、制度を上手に活用し、きちんとしたカタチで送り出してあげたいですね。



新潟県立新発田農業高等学校 環境科学科
教諭 千葉 哲弥さん

実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：8回 受講者数：環境科学科3名
実施場所：新潟県立新発田農業高等学校 環境科学科実習園場

プログラム内容

- 1回目 四つ目垣の施工
(竹材・柱の天端の切断、シュロ縄の結び方)
- 2回目 四つ目垣の施工(竹材・柱の並べ方)敷石・石板の設置
- 3回目 敷石・石板の設置、自然石の配石(1)
- 4回目 敷石、石板の設置、自然石の配石(2)
- 5回目 技能検定課題の実施(1)
- 6回目 技能検定課題の実施(2)
- 7回目 技能検定課題の実施(3)
- 8回目 これまでの振り返り、仕上げポイントの解説



教育プログラムの解説

庭園や公園などを造る「造園」。植物・石・水など、主に自然資源を用いて屋外に快適な環境や景観を創り出します。プログラムでは四つ目垣(竹垣)の施工に際して、柱の割り方や竹の切断、石の配置・向きなどを中心にマイスターがアドバイスなどを交えながら実技指導。造園2級の技能検定課題の克服に向けて、時間内に課題がクリアできるようタイムトライアルなども行っています。

自然と向き合い、自らの手で
美しい庭園風景を描く醍醐味。

知識の体得と同時に、実践・実行を志す「知行合一」を校訓とする新潟県立新発田農業高等学校。同校では6年前からマイスター制度を利用しています。学ぶだけでなく、実践するための確かな技能を習得するため同校出身の造園マイスター遠藤太一氏を招聘。造園業界の新たな担い手となる人材を送り出しています。

ものづくりマイスター派遣先学校

■ 新潟県立新発田農業高等学校

所在地 新潟県新発田市大栄町6-4-23
学科 生物資源科/環境科学科/食品科学科

設立年 明治43年
学校長 佐々木 雅伸
在校生数 480名



座談会
INTERVIEWものづくりマスター × 受講生
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター（写真_右から2番目）

遠藤 太一さん

昭和21年生まれ
昭和52年度 1級技能士「造園(造園工事作業)」取得
平成18年度 「にいがたの名工」認定
平成25年度 厚生労働省ものづくりマスター「造園」認定

新潟県で50年以上にわたり作庭家として活動する遠藤さん。国指定の名勝庭園「貞観園」の修復工事に携わり、平成18年には県内外で活躍する卓越技能者に贈られる「にいがたの名工」にも選ばれました。

原風景の学び舎で伝える
マスターの職人技。

遠藤さん この学校は私の母校です。私が通っていたころの校舎はまだ木造の二階建て。校門から入ると、校舎に沿って生えていたアカマツの並木を庭師さんが剪定していました。鋏を鳴らし楽しそうに会話している姿を見て「わたしも、あの仕事に就きたいな」と思ったことを憶えています。ですから、いまここで皆さんの指導にあたることには格別な思いがあります。



受講した生徒（写真_右）

清田 一樹さん | 環境科学科3年生

水害に見舞われた故郷を見て、災害に強く美しい街の景色をつくりたいと思った。

受講した生徒（写真_左から2番目）

佐藤 瞬さん | 環境科学科3年生

造園は大変だけど、できあがったときに達成感がある。めざせ造園2級合格！

受講した生徒（写真_左）

村山 早紀さん | 環境科学科3年生

樹木の手入れの難しさを知るほどに、造園という仕事の奥深さに惹かれている。

実践で培われた技能が
力になる。

遠藤さん 今回のプログラムでは、検定の作業内容に沿って重要なポイントを重点的にやりました。「どうしたらきれいになるか」「どうしたら取りが良くなるか」――。佐藤さんが言ったように、竹を切るのにもちょっとしたコツがあるんです。

村山さん 私が印象に残っているのは、植木にも植える向きがあるということ。植栽の天端が、正面から見たときまっすぐ見えるようにすることや、葉が前を向いて茂っているように植え付けることで、きれいに見えるということを教えてもらいました。

清田さん シュロ縄の結び方も自分たちがやると緩くなってしまうのに、遠藤マイ

テーマ

「生きた技能」が、学びの礎になる。

「自然」を相手にするからこそ、
学ぶことがすなわち生きる力になる。

スターがやると固くて見た目もきれい。お手本をじっくりと見せてもらうことで、どこをどうすればよいか分かるようになりました！

遠藤さん もうひとつ大切なことは、時間の短縮。例えば竹の横にキリで穴を開けるときも、1本1本やるのではなく3本並べて同時に穴を開ける。検定の場合は無駄な時間の使い方をしていたら間に合わない。スムーズな動作で、時間を縮めていく工夫が必要です。

造園を学び、知ることは
人生で幅広く役立つ。

佐藤さん 指導してもらうちに作業時間もみるみる早くなって、技能が身についたと思いました。それが自信にもつながりましたね。

清田さん 実際に目の前ですごい職人技を見せてもらったことは良い経験になりました。大学に進学して土木の勉強をしますが、今回教えてもらったことを活かしながら公園の設計などをやってみたい。そして、将来は遠藤マスターのように教える側の人間になりたいな。

村山さん 私は将来、造園の仕事を目指しています。周りに同じような職業を希望する女性は少ないですが、樹木を剪定したり、お手入れをすることが好き

だと感じるようになりました。

遠藤さん 技能というものは、覚えておけば必ずどこかで役に立ちます。特に造園は対象が「自然」のため、学ぶことがすなわち生きるための力にもなる。例えば解けにくいロープの結び方を知っているだけでも、災害などの際に人命救助に役立ちますよね。そんな、いろいろな知恵が技の中に凝縮されているんです。

